

上伊那広域連合新ごみ中間処理施設建設事業に係る令和元年度事後調査報告書の概要について

2 上伊那広域連合新ごみ中間処理施設建設事業

(1) 事業の概要

① 事業者	上伊那広域連合
② 事業実施区域	伊那市
③ 事業の内容	廃棄物焼却施設の建設
④ 事業の規模	処理能力 118 t / 日
⑤ 条例該当	第1種事業：ごみ焼却施設（処理能力 4 t / 時（96 t / 日）以上）に該当
⑥ 関係地域	伊那市

(2) 事業の経過

H22. 11	環境影響評価方法書公告
H24. 10	環境影響評価準備書公告
H25. 4	環境影響評価書公告
H28. 10	対象事業着手報告書の提出
H31. 3	対象事業完了報告書の提出

(3) 事後調査報告書の概要

○ 平成 31 年 3 月から供用を開始。施設の稼働による大気質、騒音・振動・低周波音、悪臭、水象、土壌汚染、動物、景観、触れ合い活動の場の調査結果等を報告。

○ 大気質

調査項目	調査地点	事後調査結果
二酸化いおう	アセス時現況調査と同じ4地点	期間平均値及び日平均値はアセス時の調査結果と同程度。1時間値及び日平均値は環境基準に適合。夏季の1時間値の最高値が1地点を除きアセス時を上回ったが、原因不明。
一酸化窒素		全地点においてアセス時の調査結果と同程度。
二酸化窒素		全地点においてアセス時の調査結果と同程度又はそれ以下。1時間値及び日平均値は環境基準に適合。
浮遊粒子状物質		全地点においてアセス時の調査結果と同程度。1時間値及び日平均値は環境基準に適合。
降下ばいじん		全地点において冬季を除きアセス時の調査結果と同程度又はそれ以下。冬季は野焼きによる影響が考えられる。
塩化水素		全地点においてアセス時の調査結果と同程度であり、目標環境濃度を下回った。
ダイオキシン類	アセス時現況調査と同じ6地点	年平均値は4地点でアセス時の調査結果を上回った。冬季の値が高くなっており、野焼きによる影響が考えられる。

○ 騒音・振動・低周波音

調査項目	調査地点	事後調査結果
騒音	アセス時現況調査と同じ3地点	St. 2 の昼夜、St. 3 の昼間の事後調査結果がアセス時の予測結果を上回ったが、全地点で環境保全目標を満足。
振動		全地点で予測結果を下回り、環境保全目標を満足。
低周波音	アセス時現況調査と同じ4地点	St. 2 で低周波音圧レベル 1 ~ 80Hz の環境保全目標を 2 dB 上回った。

○ 悪臭

- ・夏季に、特定悪臭物質 22 項目を 3 地点で、臭気指数及び臭気強度を 7 地点で測定。
- ・特定悪臭物質はいずれの調査項目も全地点で定量下限値未滿かつ第 1 地域の規制基準値以下。
- ・臭気指数は野焼きの影響を受けた 1 地点を除き 10 未滿であり、環境保全目標を満足。
- ・臭気強度は 0 ~ 2 であり、アセス時の調査結果と比較して大きな変化は生じていない。

○ 水象

- ・地下水位を6地点（対象事業実施区域内のプラント用水井戸1地点、対象事業実施区域外のアセス時現況調査地点3地点、区域外の既設井戸2地点）で毎月1回測定。
- ・対象事業実施区域内の用水井戸において、揚水中又は揚水直後に地下水位の低下が確認されたが、周辺井戸の地下水位はほぼ変化なし。

○ 土壌汚染

- ・カドミウム、鉛、総水銀、ヒ素を4地点で調査。いずれの調査項目も全地点で環境基準を満足。
- ・ダイオキシン類を17地点で調査。全地点で環境基準を満足。

○ 動物

- ・平成28年繁殖期より事後調査の一環として猛禽類のモニタリング及び影響検討を実施。
- ・オオタカの確認状況

繁殖年次	区分	調査結果
H27	工事前	巣立ち雛1個体確認（他機関からの情報提供に基づく）
H28	工事前	巣立ち雛2個体確認
H29	工事中	巣立ち雛2個体確認
H30	工事中	巣立ち雛3個体確認
R1	供用	1つがいの抱卵を確認したが、雛は確認されなかった

○ 景観

- ・景観資源・構成要素、主要な景観について、落葉季と繁茂季に5地点で調査を実施。
- ・環境保全措置（周辺の地形と調和するような施設の形状の検討等）の実施により、景観資源・構成要素及び主要な景観に及ぼす影響はアセス時の予測結果の範囲内。

○ 触れ合い活動の場

- ・桜開花季休日に三峰川サイクリング・ジョギングロード及び導入路の利用状況を調査。
- ・事後調査結果は、アセス時の利用人数より多く、利用状況にも大きな変化はみられなかった。施設稼働による影響は生じていないと判断。